

ロングトレイルの維持管理 運営システム構築の考え方

<https://www.env.go.jp/nature/mankitsu-project/nationalpark/longtrail.html>

令和5年3月

Ⅰ。検討のプロセス

ロングトレイルの意義と効果の整理、評価
(国民にとって・社会にとって・地域にとって)



意義と効果の発揮のために必要な要件の検討
(5つの要件)



5要件を踏まえたシステム構築のプロセス、要素
(システムとして具備すべき具体的内容)




まとめ

- ・特徴は「長い距離」、
「広域性」、
「連続性」
- ・ロングトレイルを歩く
意義や効果を生み出す
- ・逆に、整備、管理、運
営の上では克服すべき大
きな課題



II. 「長く歩く旅」と「長く歩く道」 意義と効果

～国民、社会、地域にとって～



長く歩く道が活用されると
何が起こるのか？

Ⅲ。ロングトレイルシステムの5つの要件

- 1) 長く1本に続いている道であること
- 2) 歩道の管理主体が明確であること
- 3) 歩道の状態を把握し、共有する仕組みがあること
- 4) 利用情報を提供できる仕組みがあること
- 5) 3), 4) を適切に実施するため地域も含んだ
管理運営体制があること

地域との協働が最も重要・協働無くしてトレイル事業は不可能

IV. ロングトレイルシステム構築のプロセス

該当する要件

～みちのく潮風トレイルと信越トレイルの事例から～

1. 基本計画の策定	1) ~ 5)
2. 地域との共同による路線設定と道づくり	1) 2) 3)
3. 憲章の作成	1) 5)
4. 運営計画の作成	1) ~ 5)
5. 地域連携による管理運営体制の構築	2) ~ 5)
6. 運営団体の設立	3) ~ 5)
7. 拠点施設の整備・運営	1) ~ 5)
8. 歩道状態把握のための管理台帳の作成	3) 5)
9. 危機管理体制の構築	4) ~ 5)
10. 一元的な利用情報の集約・提供・発信	4) 5)
11. GISデータの提供	4)
12. データブックとマップブックの作成・販売	3) ~ 5)
13. 愛称及びシンボルマークの作成	1)
14. 運営団体の資金調達	5)



みちのく潮風トレイル Michinoku Coastal Trail

2011（平成23）年3月11日に発生した東日本大震災からの復興に資するため環境省が策定した三陸復興国立公園の創設を核とした「グリーン復興プロジェクト」の取組の一つ。

環境省をはじめ、4県29市町村に及ぶ関係自治体、民間団体、地域住民の協働により、青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までの沿岸地域で段階的に開通が重ねられ、2019（令和元）年6月9日、全長**1,000キロ**を超えるナショナルトレイルとして全線開通。

東北太平洋沿岸ならではのダイナミックな海、川、里、森と連続する美しい景観とともに、自然と共にある人々の暮らし、積み重ねられた歴史・文化があり、厳しくも豊かな自然の恵みと重なり合いながらいまに繋がっている。歩く中で生まれる人と人との温かな交流も大きな魅力。

V. まとめ：皆で育むトレイル／ロングトレイルシステム

- 我が国のロングトレイルの先駆けである長距離自然歩道についてこの考え方に基づいたシステムを構築し、再活用することは多くの国民にとって有意義
- 国立公園を中心に進められているロングトレイルや、各地で取組みられて地域のロングトレイルにおいても、地域の状況に合わせてこの考え方を応用していただくことで、日本に長く歩く旅の文化が定着し、人々の豊かな生活を実現し、持続可能な社会に貢献することを期待

長く歩くことを推進する意義と効果

- ① 体験豊かな自然文化を、広く国民に提供する。
- ② 「国土や地域を巡り歩く」ことを公が提案、保証する
*環境施策や、体育や文化、レク施策、観光、運輸施策を超えて、横断的で、根源的なプロジェクトとして、**分野横断的、セクター横断的に持続可能な社会**を目指す点で意義がある。
- ③ 環境保全の施策、生物多様性施策の支える国民の知識体験基盤を形成する
*長く連続する道を辿ることで、断片的にではなく、地域、地域がつながってできている国土の姿を実体視できる、国土を形作っている**森里川海**のつながりのリアルがわかる点に大きな意味がある。自分たちが住む土地、環境を、実感をもって知り、理解できる点は、**脱炭素化、資源循環、生物多様性保全を統合した、地域づくりの施策の展開上での基盤**となる。